

# 男女が共に輝ける社会をめざして

## 男女共同参画を推進する条例を制定

市では男女がさまざまな分野に共に参画し、責任を分かち合いながら、その個性と能力を十分に発揮することも、チャレンジや活躍ができ、また認められる男女共同参画社会の実現をめざすため、「男女共同参画を推進する条例」を平成30年に制定しました。本条例の最大の特徴は「職業生活での男女の不均衡を正すこと、また家庭生活での男性の参画」などを盛り込んだことです。

## 制定の背景には

性別により役割を決めてしまう考え方や社会の慣習は今なお存在しており、職場や地域等の組織においても女性の参画が少なく、職業生活を希望する女性にとって、家庭生活との両立が困難な現状があります。このような中、誰もが人権を尊重され、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現が不可欠となっています。

また、育児や介護を抱える中でも休暇を取得しながら働ける、恒常的になっている時間外労働を見直す、そんな安心して働ける職場を実現させようと始めた「働き方改革」への取り組みは、現在も大きく前進しています。

## 働き方改革の実現へ

### 市内のイクボス宣言企業は55事業所に（令和元年8月末現在）

4月からは時間外労働の上限規制や、有給休暇の取得促進など、より働きやすい職場づくりのための法律が施行されました。仕事を効率化し、家族と触れ合う時間や、自分の趣味や地域活動に参加する時間をつくる、在宅ワークを活用する、そうした働き方により育児や介護に積極的に関わることができ、仕事と家庭の両立に繋がります。

平成29年11月3日にNPO法人ファザリングジャパン代表の安藤哲也さんの立会いのもと市内の23の事業所が「イクボス宣言」をしました。

現在、市内のイクボス宣言事業所数は55となり、誰もが働きやすい職場にしていこうと「働き方改革」への取り組みを進める事業所は確実に増えています。



より働きやすい職場へ  
市内事業所が「イクボス宣言」

## 働き方改革が必要とされる背景

- 少子高齢化による労働力人口の減少
- ライフスタイルの多様化

など

## 問題解決に向けた取組内容

- 働きたい女性への支援
- 社員個々のライフスタイルに合わせた柔軟な働き方の導入（在宅ワークなどの活用）
- 育児や介護を抱える社員などが働き続けることができる職場環境の整備

など

# ～女性が活躍できる職場へ～

## チャンスを与えてくれた職場でチャレンジ！

近江鉄道株式会社 土山サービスエリア 支配人代理 中嶋千晶さん

開業から11年となる土山サービスエリアで働く中嶋さん。登用試験を経て現在の役職に就いたのは昨年。仕事では社員からの相談に応じたり、社内研修での講師を務めるなど、従業員の約8割が女性という職場では、「直接支配人には言いにくいような意見を拾い上げたり、中には女性しかわからない相談事もあったりします。」と日々奮闘されています。

『女性活躍』に対しては「これまで

男性は活躍してあたり前であった社会に対して、今後は女性にとって良い社会になっていくのではないのでしょうか。ただ、家族の介護など解決しなければいけない問題も多くあるように感じます。」

また、現在の職については「社内において



▲社員研修で講師を務める中嶋さん



▲中嶋さんと現場を支えるスタッフの皆さん（手前左側が中嶋さん）

女性管理職に就くのは私が2人目になります。私の前に管理職であった女性社員がひとつのレールを引ってくれたこともあり、チャンスを与えてくれた社内環境もあり、自分がどこまでできるかわかりませんがチャレンジしてみようと思いましたが、後に続く社員が私を見て頑張ろう、私にもできるんだと思ってくれるよう仕事では見せていければと思っています。」と笑顔で話されていました。

## 働く私の未来予想図

### ～女子社員ネットワーク～

市のワーク・ライフ・バランス推進事業のひとつ「女子社員ネットワーク」では、市内のさまざまな業種の女性社員による意見交換が行われています。

第3回となったセミナーでは講師に合同会社WLC関西の高橋紀子（たかはし）さんらを招き、「自分が普通に行えることが、人にとってはすごいことである場合があります。自分ができることを増やし、能力を磨いていくことがキャリアプランの未来予想図です。」とお話がありました。

参加者からは「キャリアという言葉はもっと高いところにある言葉だと思っていましたが、講師から、自分が持つ全ての能力＝キャリアであるという話には目から鱗でした。」「自分の弱みや強みをこつした他

業種の方々と意見交換をすることで改めて認識しました。」「講師のこれまでの経験談や女性ならではの苦労話などを聞ける良い機会でした。」と話されていました。

こつしたネットワークを通じて能力を高め合い、多様な働き方ができる職場が増えていけば良いですね。



▲他業種での社員間で意見交換する参加者の皆さん